



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 47 号

2007.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- －「お好みワイドひろしま」で秋の八幡高原を紹介
- －冬季閉館について
- －冬季閉館中の連絡先について
- －八幡湿原自然再生工事が進行

活動報告

- －紅葉の山でゴギの産卵観察会
- －千町原草原の保全活動

観察会案内

- －冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」
- －アニマルトラッキング
- －スノートレッキング

お し ら せ

●「お好みワイドひろしま」で秋の八幡高原が紹介されます

12月6日（木）18：10からのNHK『お好みワイドひろしま』の番組内で5分間程度、秋の八幡高原が紹介されます。どうぞご覧下さい。

● 冬季閉館について

高原の自然館は11月26日より冬季閉館となります。今シーズンもありがとうございました。来年は4月25日の開館です。よろしくお願ひします。冬季閉館中の連絡先は、次のとおりとなります。観察会の申込み等にご利用ください。

メール：staff@shizenkan.info（これまでどおり）

電 話：0826-72-0864

（北広島町教育委員会 生涯学習課）

ファックス：0826-72-0608

（北広島町教育委員会 生涯学習課）

● 八幡湿原自然再生工事が進行しています

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷で進んでいます。今は、補助導水路がほぼ掘り終えられて、今年度の最終形になったところです。これから事業地はどんどん姿を変えていきます。水が流れている様子などを道路から確認できますので、今の内に、今の姿を、ぜひ見ておいてください。

今後の観察会予定

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------|
| 12月 2日 | 八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿 | 1月 20日 | アニマルトラッキング |
| 9日 | 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」 | 2月 17日 | スノートレッキング |
| | | 3月 9日 | スノートレッキング |

観 察 会 報 告

● 紅葉の山でゴギの産卵観察会

開催日時：2007年11月11日(日) 9:30

講師：内藤順一

曇りぎみの寒い朝、17人の参加でした。まず八幡高原センターで資料をもとにゴギの発見や分類について説明を受けました。人による移動の歴史に関する話や、地域別変種について図鑑を見せて頂いたり、実際の産卵時のビデオを鑑賞したりと大変熱心な講義をいただきました。

現地ではすでに下見済みの所に機材等の設置がなされており、カップルのいる場所も即座に観察できて、産卵床を作る行動や、雄が雌に産卵を促す行動を、観察しました。少し下流に移動すると、あられ混じりのあいにくの天気になってきましたが、尺ゴギといわれる4～5年は生きていられるらしい産卵後のカップルが精子を攪拌しているのか「舞の行動」をとっているのを観察することができました。当日の直前の産卵も、録画された映像を見せていただきました。紅葉の渓流で、「あそこにあります」と教えて頂かないとわからないさび色・落ち葉と見間違えそうな保護色のゴギを、観察会ならではの機会に観ることができて大変感動しました。さらに大きな尺ゴギも別の場所にいたり、なかなか去りがたい観察会でした。[や]



「そっとのぞいてください..」



みんな順番にそっとのぞく..



まず、八幡高原センターで講義を受け、産卵の様子をビデオで観た。



「こんなふうに機材を設置します..」



昆虫館の坂本さんが新開発の機材について説明される。



現地での説明にも熱が入る。



ゴギのカップル。大きい！



産卵後の「舞」の行動。

写真を提供いただいた小宮さん、ありがとうございました。

【みなさんの印象に残った物】

「ゴギの姿。」「実際に魚体だけでなく泳ぎ方などの行動が見れたこと。」「産卵。」「でかいゴギがいた。」「ゴギの舞の行動。」「3年目のゴギは大きくてよく見えてよかったです。」「産卵後のゴギ。」「ビデオなど機材。」「狭い河川の環境で太古から生きて来た生命力におどろく。」「ゴギの姿が見れたこと。」「最後に、大きなゴギがいた。」「ゴギのひれの赤みがかかった部分がきれいでした。」「ゴギの産卵。」「産卵行動。」「尺ゴギ。」

【参加したみなさんの感想】

「非日常のひとこまが感動でした。」「寒い中でしたが勉強になりました。」「雨がふらなかつたらよかった。」「ゴギがイワナ的一种だと初めて知りました。」「雨がふって寒かったけど、参加できてよかったです。」「説明もわかりやすくよかったです。」「本物（野生のゴギが見れて感動した。機材の準備がよくて観察しやすかった。」「ゴギ、紅葉、黄葉が素晴らしかった。」「ていねいに説明してくれたのでよかった。」「楽しかった。」「大きくなったゴギをちゃんと見るのは初めてで実際の「舞」も見れて楽しかったです。」「様々なタイプのゴギが見れてよかった。」「長年の疑問などが分かりました。」「産卵床が沢山みれた。」

観 察 会 報 告

● 千町原草原の保全活動

開催日時：2007年11月23日（金）8:45

草刈りの時には、いつも以上に天気が心配です。そして、いつも天気には恵まれます。今回も、数日前までとは打って変わり、「超」を付けたくなるほどの快晴でした。これなら問題なく作業ができそうです。8:00頃から参加者は集まりはじめ、9:00前にはみなさん山麓庵に勢揃いしました。八幡地区を代表して、八幡高原振興協議会の川内さんから挨拶を戴いたあと、班毎に別れました。今回は、班に分かれての作業です。リーダーは川内さんに加え、八幡青年団の佐伯ケン・前ケンの若手コンビです。現地に移動したあと、更に詳しい打ち合わせをしてから、作業開始しました。

今回は、いくつか新しい試みも盛り込まれました。その一つはキッズプログラムです。これまで、子供達は大人と一緒に作業をしたり、本部テントの周りで自由に遊んだりしていました。ただ、これだと大変危険で、作業に支障を来しかねません。そこで、今回は子供達みんなが草刈りについて学ぶことができるよう、プログラムを用意しました。まず、刈られたススキを使って「草泊まり」を作りました。大きな草原がある阿蘇では、家族総出で何日もかけて草刈りをします。そこで、草原の中に仮の小屋を建て、寝泊まりしながら草を刈ったそうです。千町原ではそうした習慣は無かったようですが、草に親しみ、草を使うことを体感するために、草泊まりを作ってみました。最後には刈った実もので飾り付けをするというオリジナルティーも出せたようです。このほか、押し切りを使ってススキの箸を作ったり、千町原にまつわるオリジナルの紙芝居を見たりと、なかなか盛りだくさんのプログラムだったようです。朝は緊張気味だった子供達も、帰るころにはすっかりうち解けて、はしゃいでいました。千町原の草刈りで再会する友達、なんていいですね。

新しい試みのもう一つは、八幡民宿組合のみなさんによる食事の提供です。いつも大勢を迎える女将さんたちだけあって、味つけも手際もササガでした。汁には、草原の草を使って作った堆肥で育てられた「はらっぱ一大根」や、草原にするために切り倒したハンノキをほだ木に

して育ったナメコも入っており、今回のお昼ごはんとして、これ以上のものは無い、という内容だったように思います。また、添えられた自家製の漬け物も好評でした。

草刈りの方は、3班は午前中に予定していた箇所を刈り終えたので、午後からは2班の作業予定地に移動して作業をしました。代わりに2班は、最難関である1班の作業を手伝いました。午後からの作業も順調に進み、終了目前で、予定していた箇所の伐採が一通り終わりました。樹木の伐採や若干の片付けが残ったものの、まずは目標達成です。始める前には「こんなにできないよ～」という声も聞かれましたが、人の力はすごいものです。毎年「作業は大人数」という言葉がつぶやかれます。（ちなみに、この後には「良いものは小人数」と続きます。）

現地で記念撮影と閉会をしたあと、みんなで山麓庵に移動し、仕上げをしました。ここではまたもや八幡民宿組合のみなさんお手製のぜんざいが振る舞われました。焼いた小餅が入って、疲れたからだだがホッとする気分でした。帰りには坂井さんからはらっぱ一大根が配られました。温泉に浸かった人、もう一度伐採跡を歩いた人と、それぞれに帰路についたようです。[し]

この報告にあたり、荒木則行さん、佐久間智子さんに写真を提供いただきました。また、今回の活動に対して、大坪剛三さん、大坪榮子さんからご寄付をいただきました。ここに記して、お礼申し上げます。ありがとうございました。



雲一つ無い快晴 .96人が集まった。



キッズもがんばって草を集める。キッズプログラムでは、草泊まりを作った。



地元の食材をたっぷり使った炊き込みごはんのみそ汁。思わず顔がほころぶ。



刈った後は、大勢で草集め。



みんなで木を投げ、道を拓ける。最後にはついに開通した！



みんなでする作業は、なぜ楽しいんだろう？



恒例の記念撮影。この後、山麓庵に帰ってぜんざいで仕上げをした。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」

開催日時：2007年12月9日（日）10:00
集合場所：八幡高原センター
講師：暮町昌保、坂井健作
準備：作業セット、弁当
定員数：30名
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）
材料代：巣箱＝300円、かんじき＝900円

冬を前に、工作をしてみましょう。ヤマガラなどの小鳥は、春が来る前に自分の巣を見つけます。今の内に巣箱を作って掛けておけば、ひよっとしたら利用してくれるかもしれません。もう一つのかんじきは、八幡の方を講師に招いて、昔からのやりかたで作ります。この冬は、自作のかんじきでスノートレッキングなんていかがですか？

● アニマルトラッキング

開催日時：2008年1月20日（日）10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、弁当、スノーシュー・歩くスキーなど
定員数：30名
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

雪原を歩きながら、動物たちの足跡や食痕を見つけ、冬にはどんな動物がどのように活動しているのかを観察します。小さな昆虫が雪上にいたり、木の実が入ったフンがあつたりし冬で

も動物たちの姿を感じることができます。雪の上を歩ける格好でお越し下さいね。

● スノートレッキング

開催日時：2008年2月17日（日）10:00
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、弁当、スノーシュー・歩くスキーなど
定員数：30名
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

雪の草原を歩きましょう。寒い中、みんなであるくとたくさんの発見があるかもしれません。あたたかい飲物などを持参し、ご参加下さい。

ーシーズンというのは本当にあつという間です。個人的には、雑誌・学会誌・本と、寄稿の多い一年でした。写真を撮る枚数と運動量が減り、体重が増えました。自然館としては、やはり自然再生事業が着工されたことと草刈りの体勢が整ってきたことが大きな変化だと思います。自然館は閉館しても、イベントは続きますので、ぜひご参加ください。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info